

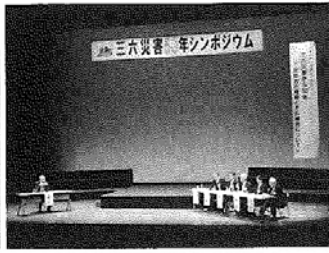
全建賞表彰規程（抜粋）

- 趣 旨 建設技術の活用並びに公共事業の進め方やストックの運用の工夫等により、特出した成果の得られた、もしくは、特出した成果を得ようとする事業及び施策（以下「事業等」という）を選択し、これを実施した機関を表彰するものである。
- 審 査 会員が所属する機関において実施され、地方協会長により推薦された事業等について、同賞審査委員会（委員長 小澤紀美子 東京学芸大学名誉教授）において、評価視点(1)「建設技術の活用」、評価視点(2)「公共事業の進め方やストックの運用の工夫等」の面から審査を行う。
- 授 賞 数 昭和28年度の初表彰以来、本年度まで2,135の事業に授賞している。

事業名 「三六災害50年」から学ぶ「地域防災力の向上」
 受賞機関 三六災害50年実行委員会
 社団法人中部建設協会
 実施期間 平成22年10月25日～平成23年12月14日



リレー式災害パネル
（伊那谷各所）



三六災害50年シンポジウム
（飯田市）



リレー式災害伝承座談会
（伊那谷各所）

〔事業概要と評価〕

昭和36年6月の梅雨前線豪雨災害（「三六災害」）の発生から50年を迎え、「三六災害」の教訓を風化させず防災活動の推進を図るため、1年2カ月の長期間にわたり60団体・組織が約100件の事業を実施したものである。連日マスコミで大々的に報道されたほか、単にイベントの実施に留まらずアンケート等による取り組みの評価の実施や今後の防災活動の展開に向けた声明の発表等がその後の地域住民の自発的な地域防災活動に結びつくなど、大いに評価できる内容であり、他の模範となるものである。